



Title	地域環境管理の社会学的研究 : ヨシ原管理にみる「複数の利害」のダイナミズム [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	寺林, 暁良
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第11634号
Issue Date	2015-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/58769
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Akira_Terabayashi_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学） 氏名： 寺 林 暁 良

主査 教 授 宮内 泰介
審査委員 副査 教 授 佐々木 亨
副査 准教授 笹岡 正俊

学位論文題名

地域環境管理の社会学的研究

—ヨシ原管理にみる「複数の利害」のダイナミズム—

本論文は、地域の自然環境を誰がどう管理・保全していくか、そのガバナンスはどうあるべきかという問題について、青森県の岩木川下流部のヨシ原管理を中心的な事例として論じたものである。地域の自然環境の管理・保全については、各地でさまざまな問題が生じており、また、その多くが社会的な問題として現れていることから、近年社会学的な研究が求められている。本論文もそれに応えようとする研究である。

本論文の成果として、以下の3点を挙げることができる。

第一に、岩木川下流部のヨシ原という、歴史的なダイナミズムをもち、また現在進行中の諸問題をはらんだフィールドから、地域環境管理にかかわる重要なトピックを丹念に掘り下げ、それを多角的に分析した点である。長きにわたる詳細なフィールドワークでデータを積み上げ、さらに他の事例についても調査を続けて比較し、さらに自然資源管理に関わる最先端の理論も取り入れながら議論を展開している点は高く評価できる。

第二に、本論文は、社会システムと生態システムを統一的に扱おうとする社会－生態システムの議論を前提としながら、地域の自然環境がたどってきた具体的な文脈、すなわち地域環境史を重視する視点に立ち、さらにその自然環境にかかわる各主体の利害関係、そして意思決定や合意形成のあり方に焦点を当てている。このような視座は、その必要性は従来から論じられていたものの、それを特定の地域において深く調査し考察したものはまだ少ない。寺林氏は、2005年からの長きにわたる当該地域でのフィールドワーク、さらには比較事例となる日本各地のいくつかのヨシ原の調査、さらには文献・資料の収集・分析から、それらを具体的に浮き彫りにした。そこから、多様な利害関係者が存在する中で地域環境管理を実践するために必要な知見を浮き彫りした。

第三に、これまでまとまった形で明らかにされていなかった岩木川下流部の環境史・民族誌を詳細に描いた点である。岩木川下流部のヨシ原を中心とした環境史は、これまで断片的には存在したが、まとまった形ではなかった。今日岩木川をめぐる利害関係

が錯綜しており、また、自然科学の研究が先行している中、社会科学的な環境史研究は、まさに待たれていたものである。後世に残す資料としても価値が高い。

審査委員会では、本論文に見る調査の詳細さ、先行研究の踏まえ方、民族誌的記述と理論的考察との間のバランス、議論の組み立て方の確実さについて高い評価がなされた。しかし、本論文ではガバナンスが比較的うまく行っている事例が描かれているが、失敗した事例との比較が欲しい、事例間の差異の社会的背景をもう少し描く必要がある、また、地域の転換力が発揮される外部条件についての分析がもう少し欲しい、などの意見が委員会では出された。しかしいずれも本論文の価値を損なうものではないことは委員会の一致した意見であった。

審査委員会は、以上の審査結果にもとづき、全員一致で、本論文が博士（文学）の学位を授与するにふさわしいとの結論に達した。